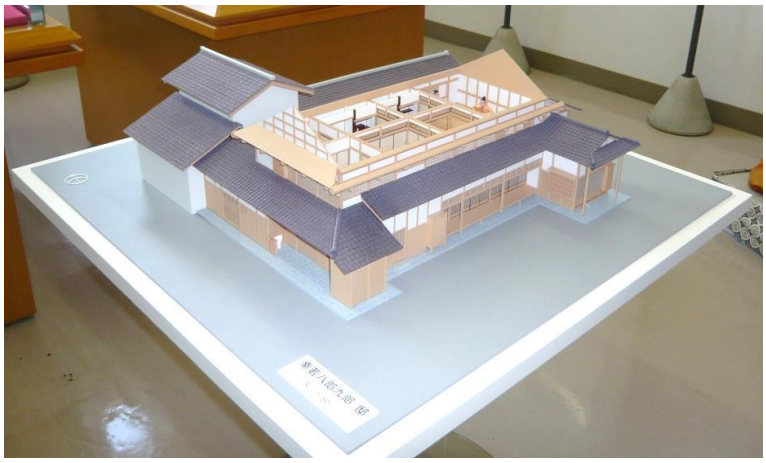
幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第３１号
令和　３年　７月　１日

八郎九郎家建築復元模型完成



明治期まで西田中にあって、その後宝泉寺の木下家に移築され、昭和四六年解体された旧八郎九郎家住宅は、長い間その詳細は不明でしたが、平成三〇年木下家により平面図が復元されました。（平成三一年一月幸若かわら版第一六号参照）

その後、本会では、その模型を製作することを検討してきましたが、ＦＢＣ基金を得たこともあり、これを資金にして、製作を開始、このほど完成しました。

幸若舞の舞台が邸宅の二階に設けられており、秘芸保持への配慮も窺えます。現在、町図書館二階の幸若資料室に展示しております。今後、各種イベントに際し巡回展示を考えています。

八郎九郎家復元　縮尺1／50　㈱トッパーズ製作、費用約400千円　監修・山口顧問

例会は隔月（偶数月）第2金曜日です

桃井雄三家文書調査結果発表

幸若舞歌謡集翻刻

絶えてしまった幸若舞であるが、幸若三家の子孫や関係者には舞曲の諸本が残されている。打波家の「舞の本」や毛利家本などが残されている。今回の桃井雄三家に残されていたものも、その内の一つと考えられる。もともと幸若三家のあいだでも、多少の違いがあったのか、あるいは「書写」の過程で、遺漏脱落や付け加えがあったのか、残された諸本の間には、演目や語句などにも違いがあるようだ。

桃井雄三家に残された文書は平成三〇年に越前町に寄贈され、専門家により調査が進められておりました。（令和二年三月幸若かわら版第二三号参照）今回、静岡県立大学名誉教授・須田悦生氏により翻刻され、織田歴史文化館研究紀要第六集に掲載されたものである。

専門的内容・表現で理解が難しい部分もあるが、ご興味のある方はこの研究紀要をお読みいただきたい。

0306 10

幸若舞 歌謡集に20曲以上

越前町教委 研究紀要を発行

越前町教委は、同町織田文化歴史館研究紀要を発行した。同町朝日地区発祥とされる「幸若舞」に関する文書の調査結果を中心にまとめている。

幸若舞は、室町中期から江戸初期に流行した芸能「曲舞」の一つ。現在の同町西田中出身の桃井直詮が始めたとされ、織田信長ら戦国武将が愛好した。「人間50年、下天の内を比べれば、夢幻のごとくなり…」の歌詞で知られる「敦盛」などの演目がある。

町教委は、直詮の流れをくむ敦賀幸若家に伝わった「桃井雄三家所蔵文書」が2018年に町に寄贈され、たのを受け調査に着手。今も続けている。

調査では、同文書にある幸若舞の歌謡集を現代語に置き換え「伏見常葉」「勧進帳」「和田酒盛」など20曲以上が収められていることを明らかにした。漢字仮名交じり文の表記が基本だが、格助詞などは片仮名が多い。紀要ではこうした研究成果を紹介している。

同館は10月に開館20周年を記念した企画展を計画。桃井雄三家所蔵文書の調査結果を中心に展示する予定。研究紀要はA4判、98ページ。希望者は千円で購入できる。（田中孝弓）

幸若舞の調査結果などをまとめた研究紀要＝越前町織田文化歴史館

越前・西尾友好の会 二〇周年記念講演会

みだしの講演会が六月一九日開催され、現代版幸若舞がお祝い出演、新曲「橋本左内」を披露しました。

オリンピック聖火リレー 山崎志織さん走る

東京オリンピックの越前町内における聖火リレーが五月二九日ホッケー場から役場までのコースで行われました。

九人のランナーのうちの一人として現代版幸若舞の踊り手でもある山崎志織さんが、沿道の声援を受けました。

幸若･歴史愛好会新発足

参加者募集

前号でもお知らせしましたように、山口顧問を講師として、「幸若舞を知る一〇〇項」をテキストとした幸若講座は終了しました。

この七月から、青木豊昭先生を講師としておむかえし、新たな講座を開始します。これまでと同様に、原則毎月第四金曜日午後一時半から、町図書館二Ｆ幸若研究室を会場として、行います。

講座のテーマとしては、別記のような案が検討されていますが、青木講師と調整中です。

第一回は七月二三日（金）です。

参加費無料、参加資格は一切問いません。お問い合わせは藤川会員〇九〇ー二一二七ー四一三一までご連絡ください。

なお、新シリーズからお茶の用意はしませんので、各自お茶などをご持参ください。

青木豊昭氏　プロフィール

元県立一乗谷朝倉氏資料館長
昭和１９年生まれ、
福井大学教育学部卒業
鯖江市川島町在住
鯖江高年大学講師
主な著書
・越前若狭地域史の謎に挑む　平成１８年
　文殊山信仰の歴史
　神明神社の神牛引き雨乞い神事
　戦国大名朝倉氏の菩提寺心月寺
　石田荘についての新知見　ほか
・継体王朝の謎　奪われた王権　平成７年

検討中のテーマ（案）

①朝倉氏と平泉寺白山と幸若舞の関連性
②朝倉家と桃井直詮の関係
　（直詮の妻は朝倉家の子女）
③朝倉家は日本有数の繁栄した大名である。
　（信長に敗れた）
④一乗谷の暮らしはどのようなものであったか。
⑤幸若について地元住民はどう思っていたか。
⑥古墳時代の暮らしはどうだったか。
　Ｅｘ．家族・夫婦……
⑦朝日地区の条理から見て、早くから文化が進んでいたと思われるが、その当時の県内では、どの地方が開かれていたか。
⑧日野川を挟んで、立待・吉江地区と朝日地区との経済・歴史関係　石田橋
⑨日野川・天王川舟運の実態

秋の研修旅行予告！

恒例の秋の研修旅行は、**１０月１６日（土）**に富山市の興国寺など桃井家ゆかりの寺院等を中心とした視察を予定しています。
詳細は次号（第３２号）でご案内しますが、ご承知おきお願いします。

富山市・興国寺

長老に聞く（その3）まつりのことなど

橋谷義孝さん　90歳

夏祭りには、一本足の下駄履きを履いて、盆踊りをしながら各部落を歩きました。昭和二〇年から秋祭りには、区の協力を得て仮装行列も行いました。

白山神社で歌舞伎もしました。糸生の松村自転車屋さんが先生で、お宮さんの境内の中で、青年団の主催で歌舞伎をやりました。なかなか覚えられなかったです。十数年は続いたかなと思います。やってくれる人が少なかったです。昔は女性も協力してくれました。衣裳を武生で借りてやりました。勧進帳など。舞台はやぐらを組んで、清水土建さんでドラム缶を借りて板を敷いてやりました。ぼんぼりを出して派手にやりました。川のそばでナイアガラの花火、打ち上げ花火もしました。見事なものでした。昭和二〇年頃は町の活性化の為に、町が祭りに金を出しました。ご奉仕もありましたのでそれで賄いました。

昭和の初めまで日野川を走る船がありました。

三八年の豪雪の時には、道幅も狭かったのでみんな二階から出入りしました。電車が運休したので学校や会社には線路を歩いて行きました。雪の捨て場がなかったので天王川にトラックで捨てました。昭和一八年か二〇年だったか白山神社の木が倒れました。あんな太い木がひっくりかえるとは思いませんでした。

かじや旅館は昭和の初めまでにやめていました。橋本工場の関係で、テグスからメリヤスに変わりました。この辺りは官庁街だったので、飲み屋が多かったです。酒を飲んで人間関係をつくりました。向うからいくと、荒平楼、朝日楼、酒井家、林家、松乃家などお宮さんの会合のあとには飲みに行きました。お宮さんで飲むと怒られました。

人力車は提灯やさんの森谷さんがやっていましたが、なかなか乗る人が居ませんでした。

西田中駅ができたときに通りもできました。今の表通りが本通りで昔はもう少し狭かったです。徐々に広げて県と揉めました。狭いから雪が降ると大変でした。国道なので災害時に備えて開けておかないといけませんでした。

第一織産には金銭面で甘えたこともありました。場所は朝日東中学校の跡地（今のあさひ保育所）にありました。あんなに早く撤退するとは思いませんでした。はやっていたお店も寂れてしまいました。市に行きました。第一織産の前は鯖江の山仙、東洋電機でした。昭和一六年頃は働く場所があって喜びました。それだけの場所を用意するのは地主の関係で大変でした。

昔の小学校は今の風月堂さんの後ろにありました。郡役所の土地でした。森谷さんは牛を飼っていました。田中の進士仁右衛門と言ったら大地主で、自分の土地で西田中まで来られたと云われています。

学童疎開は、龍生寺と朝日楼、東洋電機も受け入れたのではないでしょうか。

西田中の名物はありません。柳行李は流行っていて、父も兄貴までもがしていました。糸生の国広さんが福井で一番でした。竹内モータースの所で幅広くやっていました。昭和一〇年は賑やかでした。国広さんは藤島神社の前で旅館をしていました。

織田の神社からは三〇年ごとにお神輿が来ます。家の家紋が織田の神社の家紋です。何故か分からないが橋谷姓はみんな織田木瓜です。

昔からある西田中の姓は、田中、孝久、三谷、橋谷、児玉、田島、西川です。

青年団はいつの間にか無くなりました。昭和一五年頃風月堂の所で大火事がありました。

（おわり）